



平成27年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年5月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社エム・エイチ・グループ
 コード番号 9439 URL <http://mhgroup.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役
 四半期報告書提出予定日 平成27年5月12日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 佐藤 文彦
 (氏名) 小林 繁之

TEL 03-5411-7222

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年6月期第3四半期の連結業績(平成26年7月1日～平成27年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年6月期第3四半期	1,265	△9.5	54	△51.3	59	△48.0	23	△72.3
26年6月期第3四半期	1,398	△11.3	111	21.7	115	21.2	84	52.3

(注) 包括利益 27年6月期第3四半期 23百万円 (△72.3%) 26年6月期第3四半期 84百万円 (37.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年6月期第3四半期	2.11	—
26年6月期第3四半期	7.62	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年6月期第3四半期	1,426	718	50.4	64.48
26年6月期	1,488	728	49.0	65.37

(参考) 自己資本 27年6月期第3四半期 718百万円 26年6月期 728百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年6月期	—	0.00	—	3.00	3.00
27年6月期	—	0.00	—	—	—
27年6月期(予想)	—	—	—	3.50	3.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年6月期の連結業績予想(平成26年7月1日～平成27年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,700	△5.2	80	△32.6	86	△30.9	45	△43.3	4.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年6月期3Q	11,332,100 株	26年6月期	11,332,100 株
② 期末自己株式数	27年6月期3Q	186,148 株	26年6月期	186,148 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年6月期3Q	11,145,952 株	26年6月期3Q	11,145,981 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3.「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策、日銀の金融政策による円安や株高の流れ、また原油安の恩恵などにより、主要企業を中心に一部で急速に業績が回復しております。また、株高や主要企業を中心とした賃上げの流れにより消費マインドも好転し、個人消費の一部にも回復の兆しが出てまいりました。しかしながら、一方で実質賃金は増加には転じておらず、個人消費の本格的回復は未だ不透明であり、回復基調にあるとしても、全体的な底上げには相当の時間がかかる見通しであります。

当社グループが属する美容業界におきましても、底堅い動きがでてきており、本格的な業績の回復への期待がもてる状況にはなっておりますが、実質賃金が依然として上昇に転じていないことなどから、全体的には、業績の回復は限定的であります。

当社グループにおきましても、客単価が着実に上昇している一方で、来店客数の回復ペースは鈍く、既存店の売上高は、徐々に回復しつつあるものの、大きく改善するまでには至っておりません。

このような状況のもと、当社グループは、安易な安売り競争に走ることなく、従来通り優秀なスタッフを育成し、質の高いサービスを提供し続けることにより、顧客の支持を得て安定した業績を維持しておりますが、不採算店を閉店したことや、前年3月は消費税増税前の駆け込み需要があったことなどにより、直営サロン運営事業及びBSサロン運営事業を中心に、売上高は前年同期に比較して減収となりました。

一方で、新規事業におきましては、当社の創造性を活かしたブライダルサロンの展開や、サロンPOSシステムの提供等に引き続き注力しておりますが、主に営業人員の増員により、人件費を中心に販売費及び一般管理費の増加が先行したため、営業利益は大幅な減益となりました。

また、第2四半期連結会計期間末日に通期の連結業績予想を修正したため、繰延税金資産の計算において見積り所得額が大幅に減少することとなり、法人税等調整額が発生し、四半期純利益も大幅な減益となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,265,665千円（前年同期比9.5%減）、営業利益54,387千円（前年同期比51.3%減）、経常利益59,810千円（前年同期比48.0%減）、四半期純利益は、法人税等調整額25,453千円の発生の影響により、23,475千円（前年同期比72.3%減）となりました。

セグメント別の状況については以下のとおりであります。

(直営サロン運営事業)

日本全国に展開するBSサロン（フランチャイズサロン）のフラッグシップサロンとして、首都圏主要地域を中心に直営サロン12店舗を展開しております。

第1四半期連結会計期間より、ブライダルサロンであるモッズ・ヘア オン アンダーズ東京は直営サロン運営事業よりヘアメイク事業にセグメントを変更し、準直営サロンであったモッズ・ヘア青葉台店は契約形態の変更によりBSサロンへ転換いたしました。また、不採算店であったモッズ・ヘア渋谷店を閉店し、新たに神奈川県横浜市にモッズ・ヘアみなとみらい店をオープンいたしました。

直営サロン運営事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、721,178千円（前年同期比8.8%減）、セグメント利益は、9,895千円（前年同期比58.3%減）となりました。

(BSサロン運営事業)

「モッズ・ヘア」では、本部、加盟店という従来のフランチャイズ関係ではなく、共に一つのブランドをシェアするという意味で、ブランドシェアサロン、BSサロンと呼んでおります。当第3四半期連結累計期間において、国内におきましては、新規出店が2店舗（モッズ・ヘア十勝音更店、モッズ・ヘアMEN上尾店）、準直営サロンからの転換が1店舗（モッズ・ヘア青葉台店）、閉店が3店舗（モッズ・ヘア社店、モッズ・ヘア松戸店、モッズ・ヘア新潟店）となりました。海外におきましては台湾において1店舗（モッズ・ヘア中山店）を新規出店、韓国において2店舗を新規出店、3店舗を閉店いたしました。その結果、当第3四半期会計期間末日現在において、国内70店舗、韓国22店舗、台湾5店舗の計97店舗となっております。

BSサロン運営事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、433,330千円（前年同期比11.7%減）、セグメント利益は、177,613千円（前年同期比16.8%減）となりました。

(ヘアメイク事業)

当社は、「モッズ・ヘア」の原点であるフランス・パリのスタジオワーク専門のヘアメイクチームのプロフェッショナル精神を引き継いだ「モッズ・ヘア」ヘアメイクチームを有しております。

当社のヘアメイクチームは、ヘアメイクアーティストのエージェンシーとして「パリコレクション」や「東京コレクション」などへの参加や、CM・ファッション雑誌など年間3,000ページ以上を手掛けるなど、国内及び海外で高い評価を得ております。当社のヘアメイクチームの作品は「モッズ・ヘア」をブランディングするうえでクリエイションの柱であり、サロンスタイルなどのアイデアソースとしても重要な役割を担っております。

また、前連結会計年度より当社のヘアメイクチームのクオリティを一般顧客に提供することを目的にブライダル事業を展開しております。平成26年6月にオープンしたモッズ・ヘア オン アンダーズ東京は、当社グループが展開する初めてのブライダルサロンであります。一般の美容売上よりもブライダルに係る売上の割合が高いため、第1四半期連結会計期間より直営サロン運営事業からヘアメイク事業へセグメントを変更しております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、モッズ・ヘア オン アンダーズ東京の売上高が加算された一方で、大口受注が減少した結果、売上高はわずかながら減収となりました。セグメント利益におきましても、大口受注の減少、およびモッズ・ヘア オン アンダーズ東京が、収益貢献するまでには至っていないことにより減益となりました。

ヘアメイク事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、154,404千円（前年同期比2.1%減）、セグメント利益は、7,498千円（前年同期比44.8%減）となりました。

(美容室支援事業)

当社グループでは、国内83店舗を擁する「モッズ・ヘア」サロンの事業展開を通じて、様々なスケールメリットが創出されます。それをサービス化し、クレジット手数料軽減サービスを一般のサロンに提供する美容室支援事業などを行っております。

また、前連結会計年度より、美容室サロン経営に特化したPOS・経営分析システムの共同開発及び販売事業を行っております。現在のところ直営サロン及びBSサロンのみでの展開となっておりますが、今期中に一般のサロンに展開していく予定であります。なお、美容室支援事業は、前連結会計年度までその他のセグメントに含めておりましたが、業績も順調に拡大していることから、第1四半期連結会計期間より独立したセグメントとして表示しております。

クレジット手数料軽減サービスの契約件数、取扱高は引き続き順調に伸びており、美容室支援事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、50,799千円（前年同期比36.3%増）、セグメント利益は、19,150千円（前年同期比57.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ61,786千円減少し、1,426,405千円となりました。主な要因としましては、現預金の減少40,205千円、繰延税金資産の減少23,028千円などによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債につきましては、前連結会計年度末に比べ51,830千円減少し、707,748千円となりました。主な要因としましては、未払金の減少45,362千円、未払費用の減少8,437千円、未払法人税等の減少8,306千円、及び未払消費税等の増加8,545千円などによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ9,955千円減少し、718,656千円となりました。主な要因としましては、四半期純利益23,475千円、配当金の支払33,437千円などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年6月期の通期の業績予想につきましては、平成27年2月12日付「平成27年6月期 第2四半期決算短信」にて公表いたしました業績予想から変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	357,249	317,043
売掛金	103,199	105,378
商品	56,528	62,231
未収入金	349,703	332,118
繰延税金資産	50,149	27,120
その他	62,097	81,325
貸倒引当金	△1,746	△11,307
流動資産合計	977,181	913,910
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	336,405	334,083
減価償却累計額	△196,564	△201,381
建物及び構築物(純額)	139,840	132,702
工具、器具及び備品	101,125	58,667
減価償却累計額	△76,258	△33,113
工具、器具及び備品(純額)	24,867	25,554
その他	1,162	540
減価償却累計額	△246	△296
その他(純額)	915	243
有形固定資産合計	165,623	158,500
無形固定資産		
のれん	975	243
その他	4,578	4,437
無形固定資産合計	5,554	4,680
投資その他の資産		
投資有価証券	5,994	5,285
関係会社株式	15,404	15,404
差入保証金	180,940	178,750
リース投資資産	106,815	112,867
繰延税金資産	2,425	-
その他	30,322	37,506
貸倒引当金	△2,070	△500
投資その他の資産合計	339,832	349,314
固定資産合計	511,010	512,495
資産合計	1,488,191	1,426,405

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	10,826	18,380
未払金	474,124	428,762
未払費用	46,425	37,988
未払法人税等	10,522	2,215
未払消費税等	12,186	20,731
その他	29,735	27,463
流動負債合計	583,821	535,541
固定負債		
長期末払金	38,555	38,029
受入保証金	130,240	127,240
資産除去債務	6,868	6,896
その他	94	41
固定負債合計	175,758	172,207
負債合計	759,579	707,748
純資産の部		
株主資本		
資本金	500,000	500,000
資本剰余金	104,614	104,614
利益剰余金	149,536	139,574
自己株式	△25,751	△25,751
株主資本合計	728,400	718,438
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	212	218
その他の包括利益累計額合計	212	218
純資産合計	728,612	718,656
負債純資産合計	1,488,191	1,426,405

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成27年3月31日)
売上高	1,398,997	1,265,665
売上原価	997,919	888,252
売上総利益	401,078	377,413
販売費及び一般管理費	289,307	323,026
営業利益	111,771	54,387
営業外収益		
受取利息	40	135
為替差益	995	2,399
貸倒引当金戻入額	-	1,570
保険解約返戻金	1,661	-
その他	604	1,317
営業外収益合計	3,303	5,422
経常利益	115,074	59,810
特別利益		
固定資産売却益	65	-
特別利益合計	65	-
特別損失		
投資有価証券評価損	5,972	-
固定資産売却損	21	15
店舗閉鎖損失	7,952	2,378
特別損失合計	13,946	2,394
税金等調整前四半期純利益	101,194	57,415
法人税、住民税及び事業税	11,493	8,486
法人税等調整額	4,803	25,453
法人税等合計	16,297	33,939
少数株主損益調整前四半期純利益	84,896	23,475
四半期純利益	84,896	23,475

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成27年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	84,896	23,475
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	16	6
その他の包括利益合計	16	6
四半期包括利益	84,912	23,482
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	84,912	23,482
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年7月1日至平成26年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	直営サロン 運営事業	B Sサロン 運営事業	ヘアメイク 事業	美容室支援 事業	計		
売上高	790,587	490,788	157,651	37,277	1,476,304	△77,306	1,398,997
セグメント利益	23,750	213,411	13,586	12,128	262,878	△151,106	111,771

(注) 1. セグメント利益の調整額△151,106千円には、棚卸資産の調整額586千円、各報告セグメントに配分していない
 全社費用△151,693千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社的一般
 経費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年7月1日至平成27年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	直営サロン 運営事業	B Sサロン 運営事業	ヘアメイク 事業	美容室支援 事業	計		
売上高	721,178	433,330	154,404	50,799	1,359,713	△94,047	1,265,665
セグメント利益	9,895	177,613	7,497	19,150	214,157	△159,770	54,387

(注) 1. セグメント利益の調整額△159,770千円には、棚卸資産の調整額92千円、各報告セグメントに配分していな
 い全社費用△159,862千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社的一般
 経費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

第三者割当による自己株式の処分

当社は平成27年3月23日開催の取締役会において、第三者割当による自己株式の処分を行うことを決議いたしました。自己株式の処分に関する取締役会の決議の内容は以下のとおりであります。

処分期日	平成27年4月16日
処分株式数	普通株式 186,100株
処分価額	1株につき272円(平成26年12月23日から平成27年3月22日までの終値の平均値)
処分価額の総額	50,619,200円
処分方法	第三者割当による処分
処分先	三井住友信託銀行株式会社
資金使途	事業譲受資金
目的及び理由	事業譲受による美容サロンの買収資金調達、平成27年10月より三井住友信託銀行株式会社を株主名簿管理人として選定することとし、安定株主として関係強化を図るためであります。
その他重要な事項	該当事項はありません。